

## 福島第一原子力発電所 土壤中のPu測定結果

## 1.測定結果

(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238	Pu-239,Pu-240
グラウンド(西北西約500m)	3月31日 JAEA	$(1.6 \pm 0.31) \times 10^{-1}$	N.D.
野島の森(西約500m)		N.D.	N.D.
産廃処分場近傍(南南西約500m)		$(3.2 \pm 0.40) \times 10^{-1}$	N.D.
グラウンド(西北西約500m)	4月4日 日本分析 センター	$(2.1 \pm 0.19) \times 10^{-1}$	$(6.3 \pm 0.95) \times 10^{-2}$
野島の森(西約500m)		N.D.	N.D.
産廃処分場近傍(南南西約500m)		N.D.	N.D.
国内の土壤		N.D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N.D. $\sim 4.5$

：文部科学省「環境放射線データベース」昭和53年～平成20年

## 2.評価

検出されたPu-238とPu-239、240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、3月31日および4月4日にグラウンドで検出されたPu-238、3月31日に産廃処分場近傍で検出されたPu-238は、Pu-239、240より高く、過去の大気圏内核実験の影響として示されているPu-239、Pu-240に対する放射能比(Pu-238/Pu-239、240)0.026を超えていることから、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

なお、グラウンド及び産廃処分場近傍においては、3月21日以降にサンプリングした試料からPu-238およびPu-239、Pu-240が検出されているが、値に大きな変化は見られていない。

以上